

西宮上ヶ原キャンパスの旧院長室

池田裕子（学院史編集室）



同窓から寄せられた見学希望の声に応え、2013年4月27日の同窓会総会の折り、旧院長室を公開しました（『学院史編集室便り』第37号にて紹介）。この部屋は、1929年に関西学院が上ヶ原に移転した時、C. J. L. ベーツ第4代院長の執務室として総務館2階に設けられものです。75年後の2004年、本部棟増築部分3階に新しく広い院長室がつけられ、その役割を終えました。ここを最後に使われたのは山内一郎第13代院長でした。

公開に当たり、長らく倉庫状態だった部屋を片付け、掃除し、ベーツ院長にまつわる品を運び入

れました。その際、参考にしたのは、昔の写真と神戸女学院の院長室です。神戸女学院では、ヴォーリズが設計した院長室が今も使われています。費用をかけずに、かつての雰囲気を少しでも取り戻したいと思いました。現在では、月に数組の見学希望者をご案内しています。

旧院長室に来られた方が洩れなく感嘆されるのは西の窓【上の写真左側】からの眺めです。甲山を背景に時計台と中央芝生、そして行きかう学生の姿が見えます。ベーツ院長の脳裏に焼き付けられた景色を今も目にすることができます【左の写真は1940年6月撮影】。

ベーツ院長が使っていたと伝えられる大きなデスクには、教育勅語が納められた漆塗の箱を置きました（蓋のマークは何故か校章と反対向き）。中の教育勅語は、吉岡美国第2代院長の手によるものです。デスクは、奉安庫に顔を向けるよう配置されています。



マントルピースの上には、ベーツ院長が描かれた水彩画“Matsushima Islands”を飾りました【写真下右】。2014年9月に原田の森ギャラリーで開催された「関西学院大学絵画部弦月会創立100周年記念展」のため、この作品をOB弦月会に貸し出したところ、このように美しく額装されて戻ってきました。費用は、画廊を経営されている白井良司さん（社会昭56）がご負担くださったそうです。

天井のデザインと照明器具は当時のままと思われます【写真下左】。天井はヴォーリズが描いたデザイン画の通りですが、照明器具は長い年月を経て歪んでしまいました。

